

工場誘致で 売り込みを

石地宜一氏（一創会）国策事業の工場誘致について、政府や海外にトップセールスせよ。

田村市長 大都市圏からの誘致



へ関係機関と情報共有を図る。

石地氏 能登半島地震による

下水道管の被災状況と対策は、

東野上下水道部長 松任、美川の7町が被災し、復旧工事は2026年度に完了予定だ。

寺社再建で独自補助

県の制度「対象外」を補完

白山市は、能登半島地震で損壊した神社や寺、集会所の再建に独自の補助制度を設ける。寺社など地域コミュニティ施設に対しては県が復興基金で最大1200万円を助成する仕組み

があるが、法人格を持つ町内会が該当する「認可地縁団体」は対象外となっている。市は同団体にも県と同様の交付基準で補助する。

県の制度では地域コミュニティ施設の再建費の4分の3を町内会などに助成する。市内では389町内会（2023年6月時点）のうち83町内会が認可地縁団体となっており、市は多額の修復費がかかることも考慮し、同団体か否かに関わらず同等に補助する必要があると判断した。

市によると、寺社の再建に関して複数の町内会から問い合わせがある。既に自前で修復を終えた施設についても、さかのぼって補助対象とする。石地宜一氏（一創会）がたまたした。

IT活用で 負担を軽減

石地宜一氏（一創会）町内会などの取り組みの負担軽減にIT活用を進めよ。

田村市長 電子回覧板アプリの導入と活用方法を検討したい。



石地氏 トレインパークの集客へ環境改善が必要だ。

宮本企画振興部長 夏休みを無休にできるか関係者と相談したい。駐車場の増設は難しい。

農作物被害なし

8月の大雨に関して市側は「農作物の被害は確認されていない」とした。一方で水路の損壊や農地の表土流出、排水路の一部詰まりなどがあり、市が災害復旧事業で対応するほか、地元が多面的機能交付金などを活用して復旧を進める。河川では県が尾越川、大慶寺川の護岸の復旧工事に当たる。石地宜一氏（一創会）に答えた。

「塩害対策は」

白山市議会予算常任委員会は18日開かれ、市が12月補正予算案に展示の整備費を計上した点検用新幹線車両「ドクターイエロー」に関する質問が相次いだ。

市は市立高速鉄道ビジターセンター（愛称・トレインパーク白山）で来年5月ごろから、「幸せの黄色い新幹線」と呼ばれるドクターイエローを公開する。車両はJR西日本が所有し、市は展示用の線路などの整備に1千万円を充てる。

山口俊哉氏（みらい白山）が車両の

ドクターイエロー 質疑熱く

白山市議会予算委

「喜色食堂をイエロー食堂に」

公開期間を尋ねると、市側は「現時点で決まっておらず、状況を見てJRと協議する」と応じた。石地宜一氏（一創会）は展示場所が屋外の多目的広場である点を挙げ、「海から比較的近い立地であり、広場に囲いをするなど塩害対策は考えているか」とたまたした。これに対し市側は「囲いはしないが、維持管理はJRが責任を持って行う」と答弁した。

「外で展示するならば、施設の入場者数にカウントできないのではないかと」と質問したのは山本佳裕氏（一創

会）。市側が「入場者を増やすだけが目的でなく近隣施設を含めた周遊につながる」と答えると、すかさず田代敬子氏（無所属・公明）は「近くの道の駅めぐみ白山のレストランはその名も『喜色食堂』だが、この際、『イエロー食堂』に名前を変えたらどうか」と冗談交じりに提案した。

これに市側は「グッズ販売でもテナントに声を掛け、相談はしたい」と応じ、議論はようやく収まった。全国区の人気車両の話だけに、会派を超えて質疑が尽きない展開となった。